



2022年度 **3月号**
 日本キリスト教団
名古屋新生教会 教会学校だより
 名古屋市西区天神山3-7 TEL.052-531-1820
 ホームページ: [名古屋新生教会](#) 検索

世界を見渡すと、まだまだコロナの影響もあり、また戦争や災害といった不安と悲しみの中で過ごしている人たちがいます。日本でも悲しい事件が連日のように起きています。私たちの周りでも不安や悲しみの中にいる人がいるかもしれません。それでも季節は巡り、春は必ずやって来ます。世界に、そして私たち一人ひとりに明るい日差しが与えられることを祈ります。

今月の礼拝 単元29: 主イエスの自己証言

📖…お話 🎵…奏楽

月日	週 題	聖書箇所	ティーンズ礼拝 (小4~中学生以上) 9:00 ~ 9:30	分級 (小学生/中学生以上) 9:35 ~ 9:55	こどもれいはい (幼児~小3) 10:00 ~ 10:20
3月5日	わたしは 門、良い羊飼い	ヨハネ福音書 10:1-18、27-29	📖 武岡 基 🎵 武岡路実	(状況をみて) プレイ・タイム	📖 武岡路実 🎵 安達いづみ
3月12日	わたしは よみがえり、いのち	ヨハネ福音書 11:1-46	📖 安達正樹 ^{牧師} 🎵 武岡路実	(状況をみて) プレイ・タイム	📖 安達いづみ 🎵 武岡路実
3月19日	わたしは 道、真理、いのち	ヨハネ福音書 14:1-14	📖 堤 砂里奈 🎵 武岡路実	(状況をみて) プレイ・タイム	📖 武岡 基 🎵 武岡路実
3月26日 進級式	わたしは まことのぶどうの木	ヨハネ福音書 15:1-17	📖 武岡路実 🎵 堤 砂里奈	(状況をみて) プレイ・タイム	📖 安達正樹 ^{牧師} 🎵 堤 砂里奈

進級式 3月26日(日) ティーンズ礼拝後/こどもれいはい後 それぞれ礼拝堂にて
 幼稚園を卒園するお友だち、小学校・中学校・高校を卒業するお友だちもいます。また、みなさんひとり一人も4月から1つずつ進級することをお祝いし、新学期から
 もよき生活を送られるようお祈りのときをもちます。



来月の行事ですが、予定しておいてください。

いつもどおり礼拝を守ります。

ティーンズ礼拝 (小4年~高中生) 9:00~
 「たまご探し」※ 9:30~
 こどもれいはい (幼児~小3年) 10:00~

※例年、お友だちを誘って参加してもらっていますが、今年も、いつも教会に通っているみなさんのための催しとします。



今月の聖句

わたしにつながっていなさい。わたしもあなたがたにつながっている。

(ヨハネ15:4)

今月のさんびか

こどもさんびか 132 (きみがすきだって)



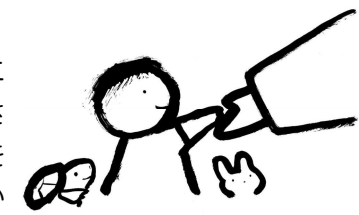
「イエスさま」ってどんな方?…今月の礼拝では「イエスさま」ってどのような方なのか、ということイエスさまご自身が私たちに示しになったお話から学びます。

今月のさんびか「きみがすきだって」は、もともとの題では「子どもを勇気づける歌」と付けられています。子どもに勇気を与えるものは「誰かが認めてくれること」(1節)、「誰かから必要とされること」(2節)、「一緒に歩いてくれる人がいること」(3節)、そして「神さまが助けてくれること」(4節)だということを、子どもの気持ちに寄り添う素直な表現で歌う明るい賛美歌です。

詞・旋律ともにドイツ人の牧師であり作家であるアンドレアス・エバートさん(1952-)によって書かれました。彼は東ベルリンのキリスト教ではない貧しい画家の家庭に生まれ、一年後に西ベルリンに移りました。当時のドイツは東西2つの国に分かれていて、首都のベルリンも東ベルリンは東ドイツ、西ベルリンは西ドイツの領土だったので、ベルリンという町の東と西でも東ドイツから西ドイツへと国を超えて移り住んだこととなります。当時は東西のドイツは対立していて、また東ドイツは経済的にも厳しい状況にあったため、多くの人々が東ドイツから西ドイツへと移り住みました。東ドイツから出て行く人を防ぐため、1961年に東ドイツは東西ベルリンの境界にいわゆる「ベルリンの壁」を建設したのでした。

さて西ベルリンに移り住んだエバートさんは、子ども時代に参加した教会のキャンプで大きな感動を受けて7歳で洗礼を受けました。寄宿学校に入り、教会の児童合唱団で歌い、若い頃に牧師になる志を与えられ、ギムナジウム(日本では中高一貫校といった学校に相当)を卒業後、西ドイツ国内でもキリスト教に熱心なノイエントッテルスアウやハイデルベルクといった町で学び、キリスト教ルター派教会の牧師になりました。エバートさんはこの賛美歌を、彼が26歳だった牧師研修中にノルウェーの保養先で書き、1979年の賛美歌コンテストに応募して最優秀賞を与えられました。その後、西ドイツ国内の多くの教会で牧師として働いた後、現在はミュンヘンにある聖マルティン霊性センターの所長として、霊性(=聖霊:英語の Spirituality スピリチュアリティ)を養う研修会や黙想会を行っています。

この賛美歌が日本でも知られるようになったのは、1998年にエバートさん自身が編集責任者となって出版されたドイツのこどもさんびかからです。その歌集のCDでは「ラララ…」の部分は付点をつけて跳ねるように歌われています。みなさんも試してみてくださいいかがでしょうか?「子どもを勇気づける歌」ですから、気落ちしている子どもたちのためのお話の後はもちろん、私たち自身が誰を勇気づけよう、というメッセージにも相応しい賛美歌です。



おたんじょうびおめでとう

3月生まれのお友だち